

第48回日本分子生物学会年会
フォーラム
2F-13

12月4日（木） 19:15-20:30 第13会場

いま臨むゲノムの景色：「和」の心と匠の技

Approaching the Genomic Horizon: The Heart of Wa and the Skill of Takumi

高精度ロングリードシークエンスの普及は、ヒトや実験生物だけでなく、日本を象徴する野外の多様な生物種の全ゲノム情報解読をも可能にしつつある。しかし、それを達成するためには単なるDNAの扱いだけではなく、タンパク質との複合体としてのクロマチンやそれを納める核や細胞についての理解や技術、そして配列情報を正しく解釈するスキルが欠かせない。本フォーラムでは、世界で加速する生物多様性ゲノミクスの流れを汲んで、それに資する分子生物学・細胞生物学に基づく技術や解析手法について、とくに「どこにも書かれていないノウハウ」に光を当てて議論する。

話題提供者

川口 茜（国立遺伝研） ～動物クロマチンの匠
川勝泰二（理研BRC） ～植物クロマチンの匠
西原秀典（近畿大農） ～反復配列検出の匠

オーガナイザー

工樂 樹洋
（国立遺伝研）
白澤 健太
（かずさDNA研究所）



本企画は「和色バイオゲノムコンソーシアム（WBC）」の活動の一環です
～和色、それは日本の風土や文化、生活に深く根ざした命の彩り～